

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	福山市立培遠中学校	校長氏名	高橋 正明	生徒指導主事氏名	上代 隆志
-----	-----------	------	-------	----------	-------

取組事例名 『地域に認められる学校から、地域に頼られる学校へ』

取組のねらい 『キーワード 自己肯定感』

- 諸活動を通じて望ましい人間関係を形成することで、問題行動を減少させる。
- 集団づくりを推進し、中間層の生徒を鍛え、集団の質を向上させる。
- 保護者、地域と協働して活動することで地域への所属感、連帯感を深める。
- 生徒会を中心としたリーダー層を鍛えて自治活動を盛んにする。

取組の具体的内容 『キーワード 地域に開かれた学校』

○体育大会

- ・異学年交流を意図して色別で縦割り活動を実施した。3年生をリーダーとして事前指導を行い、自治活動推進の場とした。
- ・特に応援合戦練習、ソーラン演舞では3年生のリーダーを中心に取り組んだ。

体育大会でリーダーから全校生徒への呼びかけ



○地域清掃

- ・校内、あるいは校外に出て保護者、地域の人と一緒に美化活動、バラの植栽をした。
- ・校区内小学校とも連携し、小中の円滑な接続をめざして6年と中2の合同で地域の美化活動をした。

○文化祭

- ・学年、部活単位などで、地域にむけて発信していく。(劇・取組の報告・作品・演奏)
- ・全校合唱の練習では生徒会を中心としたリーダーが活躍する。

文化祭での全校合唱



○校内駅伝大会



タイムトライアル風景

- ・事前に駅伝リーダーを中心に一斉ランニング、タイムトライアルを繰り返して意欲を高めた。
- ・PTAの協力で、走路監視や競技後の豚汁の提供ができた。

PTA豚汁炊き出し



○ボランティア活動

- ・地域行事の運営ボランティア。パフォーマンス発表での貢献。公園のトイレリニューアル。地域に出て災害地域への募金活動。



学校前の公園トイレリニューアル



地域の役員と意見交流



地域文化祭に小学生と合同でソーラン演舞

○短学活交流

- ・各クラスの班長が他学年の短学活を見学し、意見交流することでリーダー育成に取り組んだ。

取組の課題・創意工夫『キーワード 協同・連携・発信』

- 地域と協同して取り組む伝統をどのように継承していくのか。
- 取組がマンネリ化し、アイデア、発想が枯渇していく可能性。
- 意欲的に参加できない生徒層をどのようにまきこむことができるか。
- 地域の各種団体協議会等での積極的な発信を続ける。
- 地域からのさまざまな要請を積極的に受け入れて地域に還元する。
- マスコミ等を積極的に利用して、PRしていくことで広く認知してもらう。

取組の成果（効果）『キーワード 自信・誇り』

- 諸活動に対して、市教委より「学校元気大賞」を受賞したり、「県知事とのチャレンジトーク」に推薦を受けたりして広く活動が認められたことで、特にリーダー層の自信と自己肯定感が高まった。
- 暴力行為、地域からの苦情数は減少している。

	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
暴力行為の発生数	14	3	4	7	3
地域からの苦情件数	148	84	70	64	38

○地域清掃活動の生徒の振り返り

清掃活動で一番うれしかった事は、地域の人と協力できたことです。地域の人が、集めたゴミをゴミ袋に入れてくれたり、一緒に掃除をしたりしてくれました。それで、私が「ありがとうございます」と言うと、地域の人たちは、笑顔で返してくれたり、「頑張ってるね」と声をかけてくれました。その時、私はとてもうれしかったです。

○地域清掃活動の参加者の感想

子ども達と直接ふれあう機会が少ない中、絆や連帯感を持つために一緒に汗水を流せてよかった。

- 校区小学校から本校への進学希望者数が増えてきている。
- 地域から肯定的な評価をもらう場面が多くなった。地域からの評価を生徒に伝え続けていくことで、生徒は自信を持ち、学校に誇りを持ち出してきていると感じる。

今後の展開『キーワード 認められるから頼られるへ』

- 各取組の質を高め、小学生から憧れられ、地域から必要とされる学校をめざす。
- 組織的な体制を機能させ、人が代わっても伝統の継承ができる。
- 小中一貫をさらにすすめ、取組につながりを持たせる。

他校へのアドバイス『キーワード 組織的な生徒指導体制』

- 取組には中心となるリーダーが必要である。取組の意図を明確に伝え、納得させる説得力をもつこと。
- 各役割においては、各々が自分の役割だけでなく、少し範囲を広げて仕事に臨むことで、職員同士の重なりしろが生まれる。これは、他の役割に介入することではなく、理解し、気づくことである。組織的な体制はこの重なりしろが重要である。